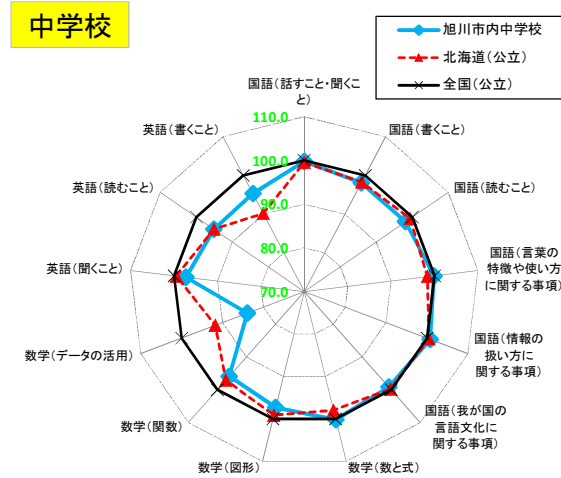
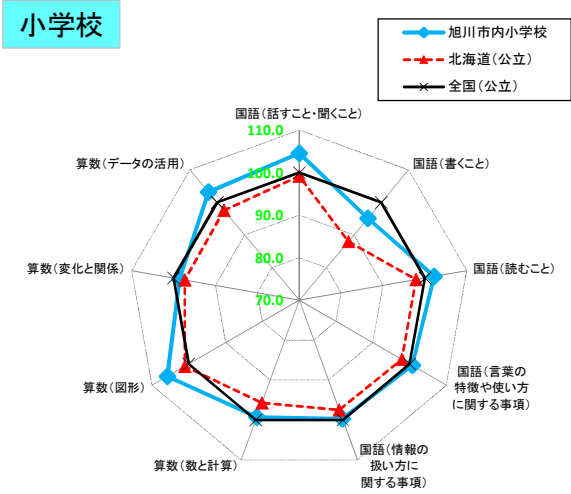


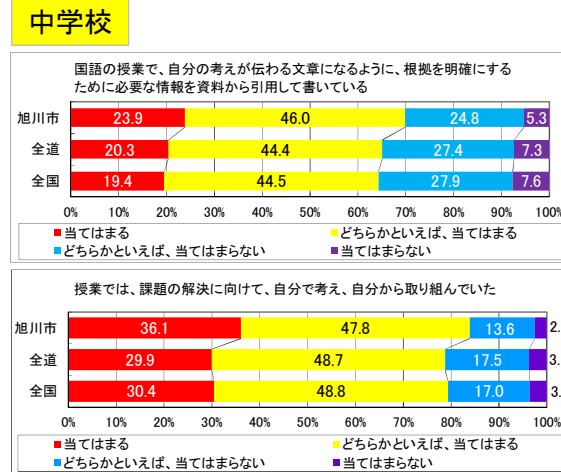
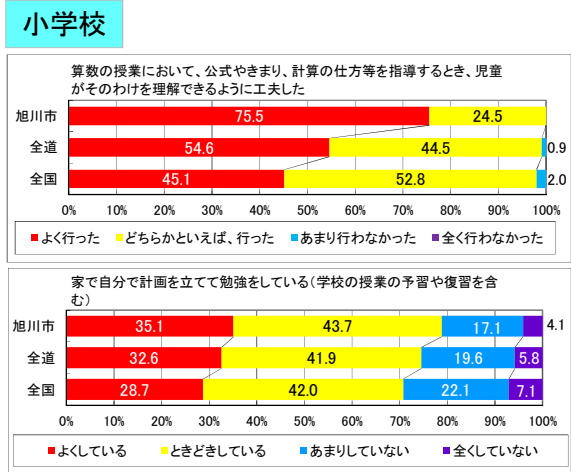
■旭川市内の状況及び学力向上策 (小学校数:49校、児童数:2244人) (中学校数:26校、生徒数:2144人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

### 小学校

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、算数の「図形」「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、児童の家庭学習に対する意欲が高まり、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

### 中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするための必要な情報を資料から引用して書くことができるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱いに関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、生徒の主体的に学習に取り組もうとする意欲が向上し、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【旭川市の学力向上策】

- ◎ 「旭川市確かな学力育成プラン」に指導の重点として位置付けた「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい学習習慣づくり」に基づく取組の推進及び各学校における「学力向上ロードマップ」の作成
- ◎ 国語、算数・数学、英語等を担当している教員と市教委指導主事とで構成した授業力向上プロジェクトチームによる全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた「旭川版 指導の改善策」及び「授業のポイント集」の作成と各学校・各種研修会等での活用
- ◎ 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」推進教員による配置校及び連携校の教員への授業改善に向けた継続的な指導の実施
- ◎ 全小・中学校で導入しているオンライン教材を活用した、個に応じた指導の充実

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

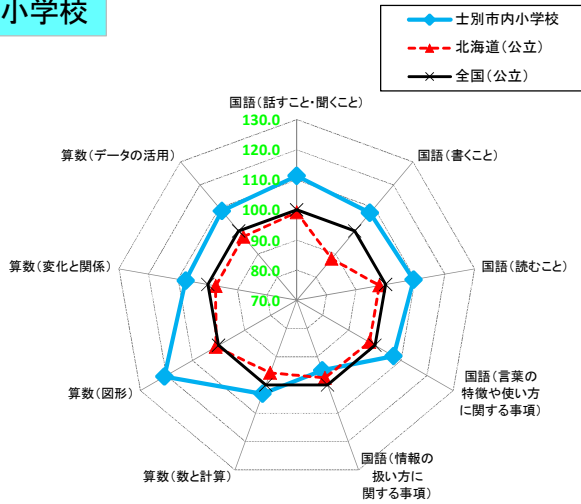
■士別市内の状況及び学力向上策（小学校数：6校、児童数：104人）（中学校数：4校、生徒数：109人）

【教科全体の状況】

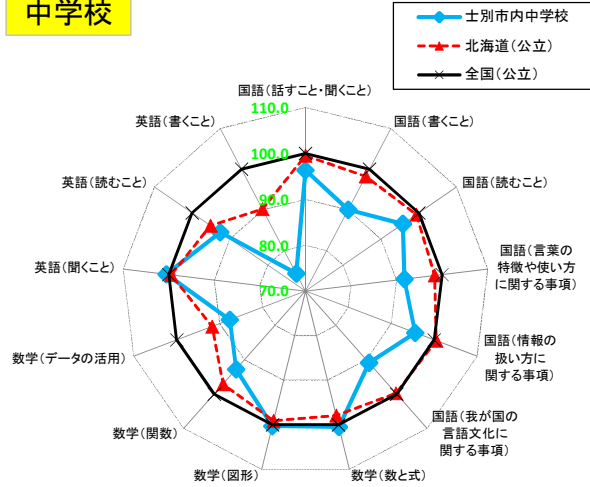
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	66
算数・数学	68	49
英語	-	43

小学校

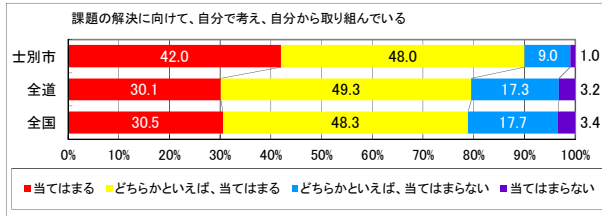
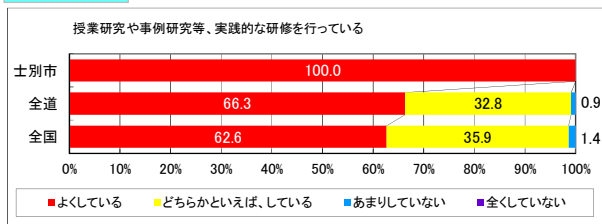


中学校

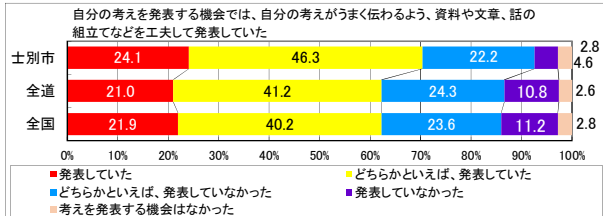
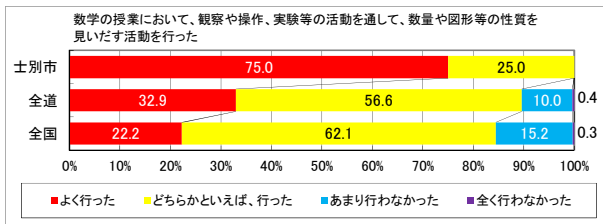


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の3領域1事項、算数の4領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、児童の主体的に学習に取り組もうとする意欲が向上し、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、学習内容の理解が図られ、数学の「数と式」「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるよう指導したことにより、言語活動が充実し、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【士別市の学力向上策】

- ◎ 個に応じた家庭学習の課題設定と、習熟度別学習などの個別最適な学習の充実と工夫
- ◎ 市教育委員会(指導主事)と士別市教育研究会が連携し、小・中学校教職員対象の授業改善に向けた実践交流の実施
- ◎ 朝や休み時間、放課後における補足的な学習と、長期休業中における発展的・協動的な学習の設定

【Webページ】



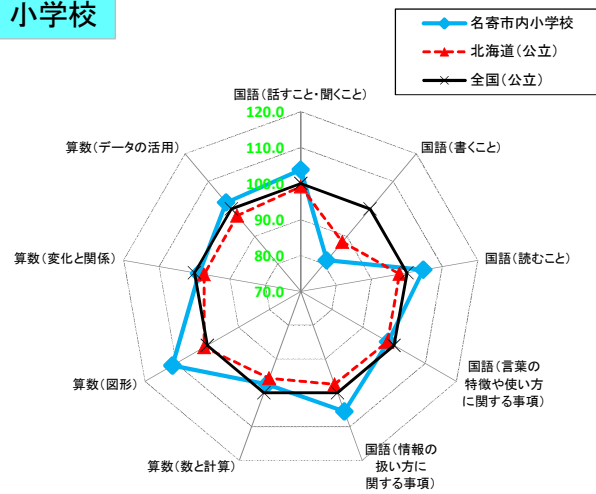
(R6.3掲載予定)

■名寄市内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：175人）（中学校数：4校、生徒数：170人）

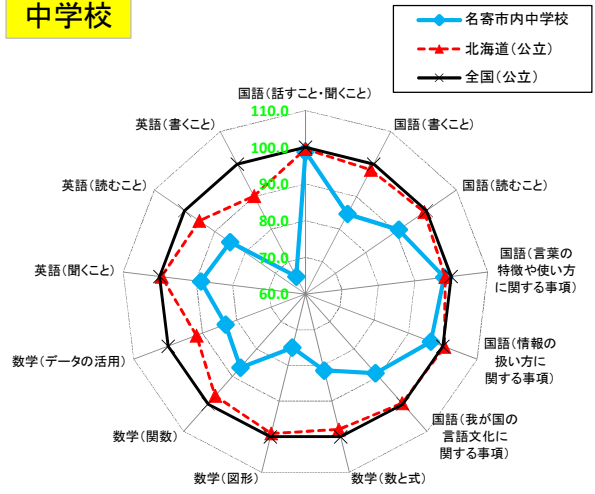
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

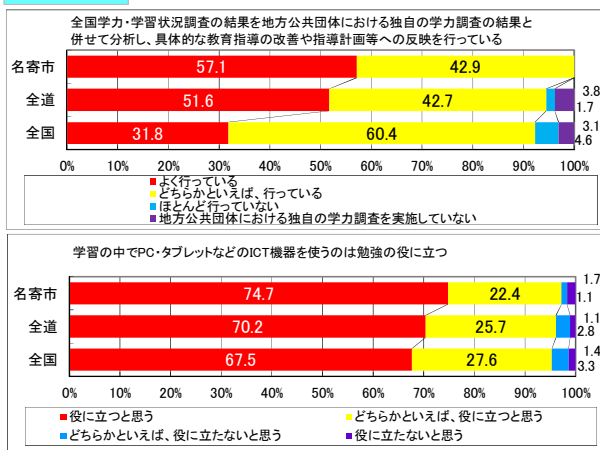


中学校

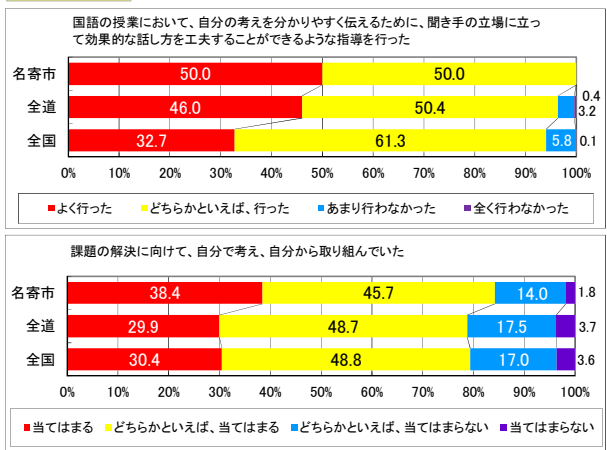


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の2領域1事項、算数の2領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

児童が自分で調べる場面や自分の考えをまとめ、発表したり表現したりする場面でICT端末を使用させたことにより、児童が端末活用の有用性を感じ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立つて効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、生徒の主体的に学習に取り組もうとする意欲が高まり、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【名寄市の学力向上策】

- ◎ 名寄市教育改善プロジェクトを中心とした、市内小・中学校が一体となって進める授業改善と学年・学級経営の充実に向けた取組の推進
- ◎ 名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、ICTを日常的に活用した教育活動及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に資する1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組の推進

【Webページ】



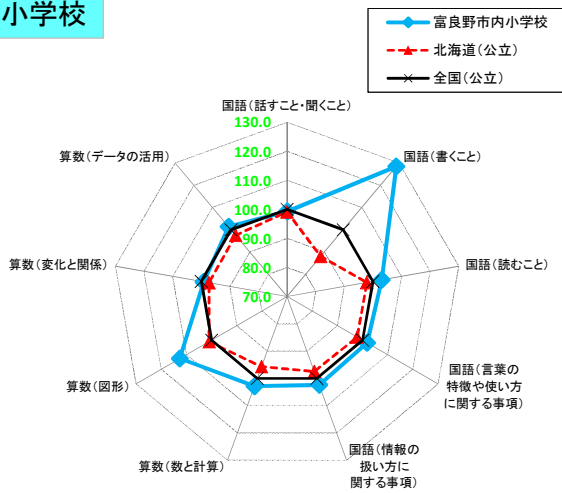
(R5.11掲載予定)

■富良野市内の状況及び学力向上策（小学校数：8校、児童数：134人）（中学校数：4校、生徒数：137人）

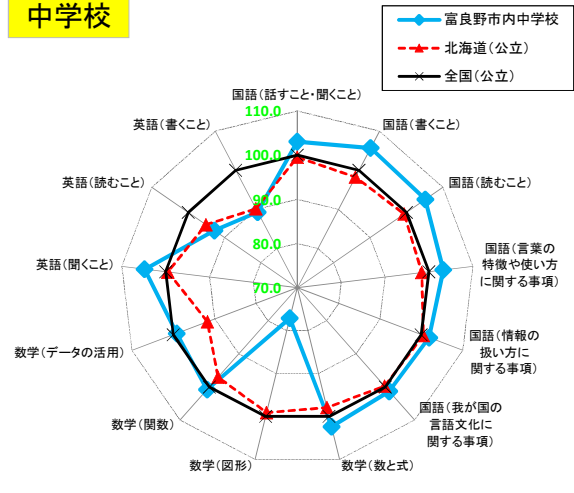
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

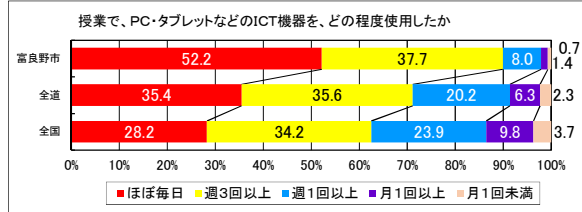
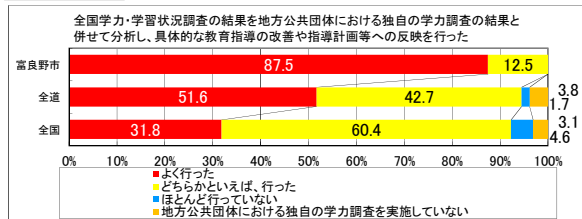


中学校

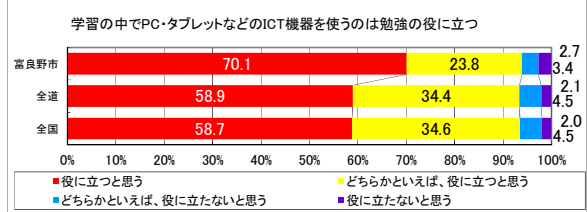
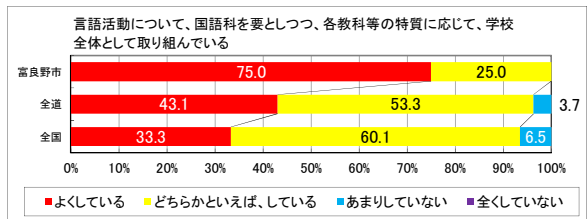


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に資する授業改善が促進され、国語の2領域2事項、算数の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業におけるICT機器の活用に関する情報や研修等を充実させたことにより、ICT機器を活用した授業づくりへの理解が促進され、授業におけるPC・タブレットなどのICT機器の活用頻度が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

**中学校**

国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として言語活動に取り組んだことにより、生徒の言語能力の育成が図られ、国語の全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたICT機器を高い頻度で授業で活用したことにより、生徒がICT機器の有用性を実感し、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【富良野市の学力向上策】

- ◎ 「富良野市教育振興基本計画」及び「富良野市教育推進計画」に基づく市内小・中学校、教育委員会が一体となった学力向上の取組の推進
- ◎ 「富良野市学力向上推進プロジェクト」による分析結果・授業改善の方策等を掲載した調査結果概要の作成及び児童生徒の学習状況の改善、家庭や地域の教育力の向上に向けたリーフレットの作成
- ◎ 富良野市ICT推進委員会による実践交流、1人1台端末の効果的な活用に向けた授業改善の推進及び市主催による教職員研修の実施

【Webページ】



(R5.11掲載予定)

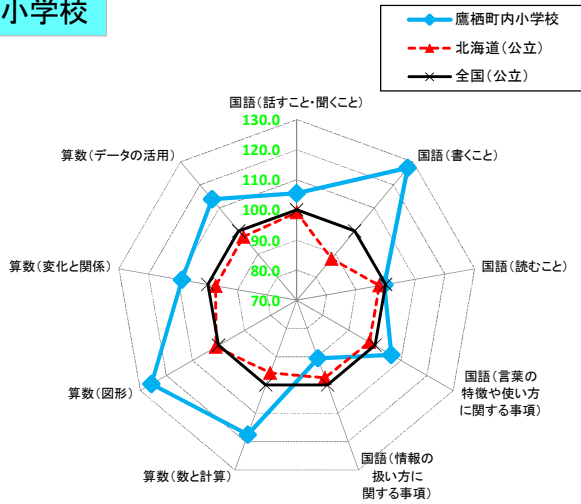
■鷹栖町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:47人）（中学校数:1校、生徒数:56人）

【教科全体の状況】

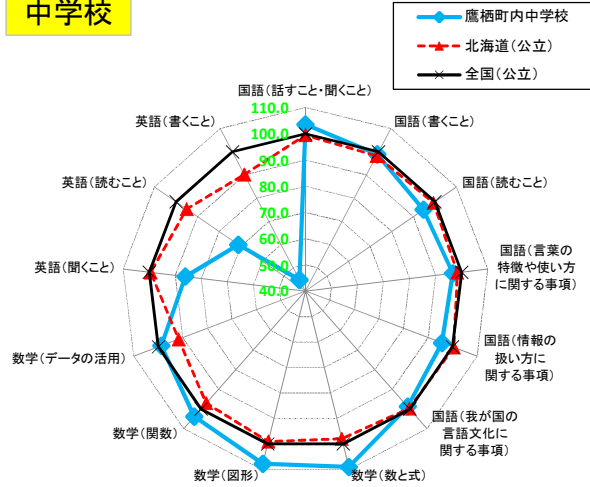
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	68
算数・数学	73	54
英語	-	34

小学校

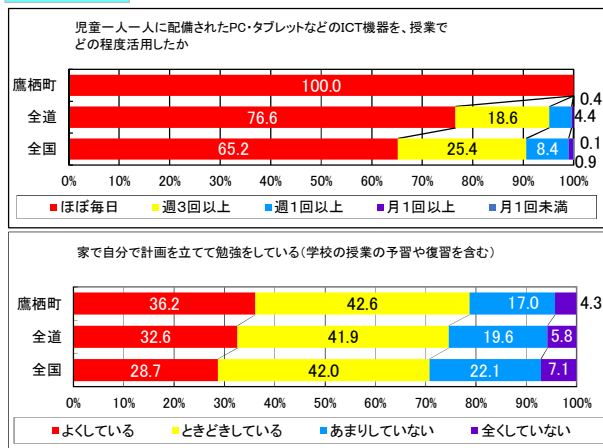


中学校

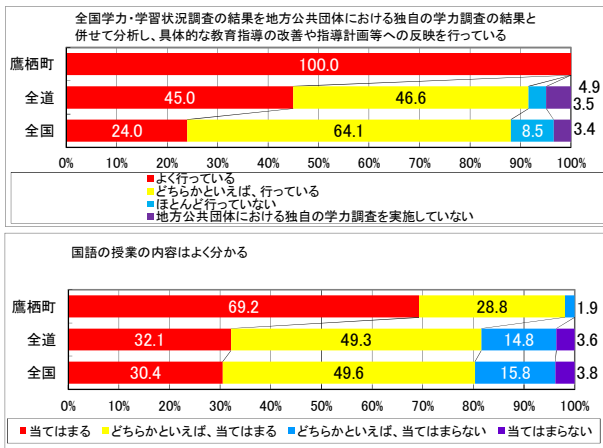


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

1人1台端末の活用に関する研修を行うとともに、授業における活用を推進したことにより、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善が促進され、国語の3領域1事項、算数の全領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

前年度の児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたことにより、児童の家庭学習に対する意欲が向上し、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、数学の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために効果的な話し方を工夫することができるような指導や、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【鷹栖町の学力向上策】

- ◎ 放課後や休日等における学習機会の提供や習熟度別指導の充実
- ◎ 英語教育の充実を図る小・中学校の連携
- ◎ 1人1台端末の活用に向けた研修の実施及び学習支援ソフトや電子黒板等を効果的に活用した学習活動の推進

【Webページ】



(R5.11掲載予定)

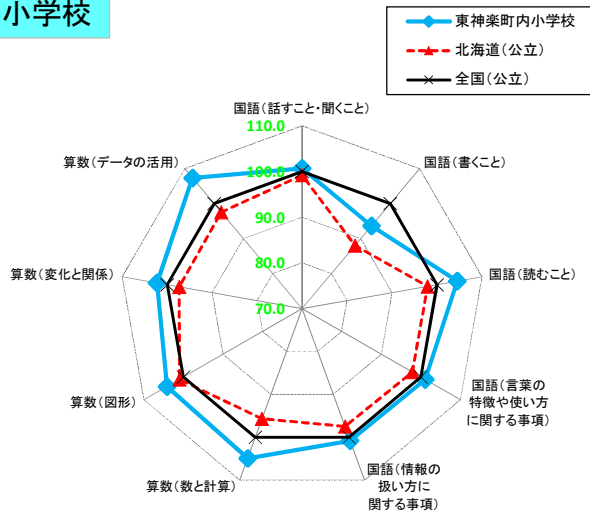
■東神楽町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:108人）（中学校数:1校、生徒数:94人）

【教科全体の状況】

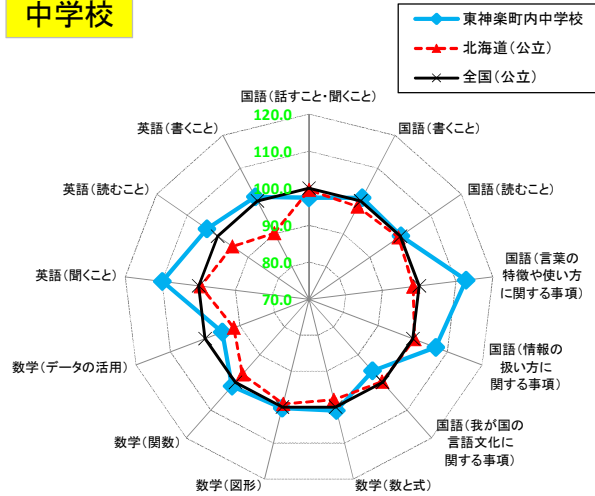
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	71
算数・数学	65	51
英語	-	48

小学校

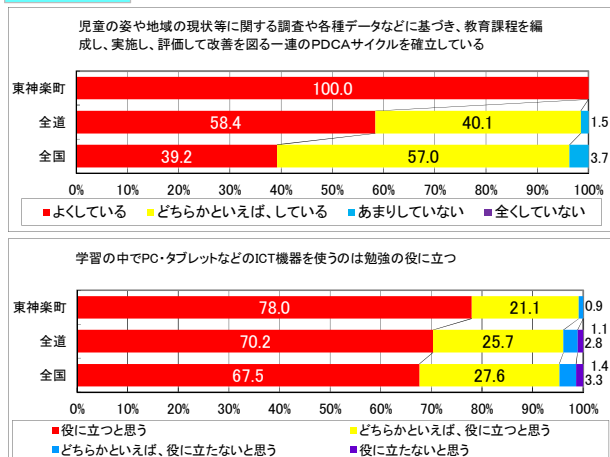


中学校

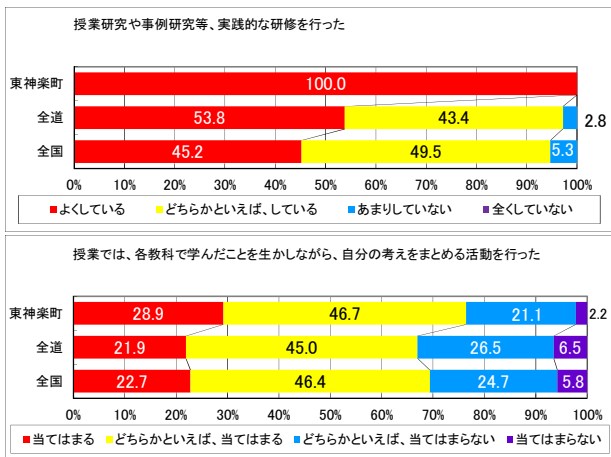


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成、実施し、評価して改善を図る一連の検証改善サイクルを確立させたことにより、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の取組が促進され、国語の2領域2事項、算数の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、児童が自分で調べる場面や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面などでICT端末を活用したことにより、児童はその有用性を感じ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の取組が促進され、国語の2領域2事項、数学の3領域、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒に対して、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、生徒に学習の仕方が定着し、授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【東神楽町の学力向上策】

- ◎ 東神楽町小中一貫イノベーションプログラム、小中一貫教育推進委員会による9年間を見据えた教育の充実に向けた取組の推進
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用の推進
- ◎ 各学校の状況や規模に応じた小学校高学年における専科指導、習熟度別学習など個に応じた指導の充実

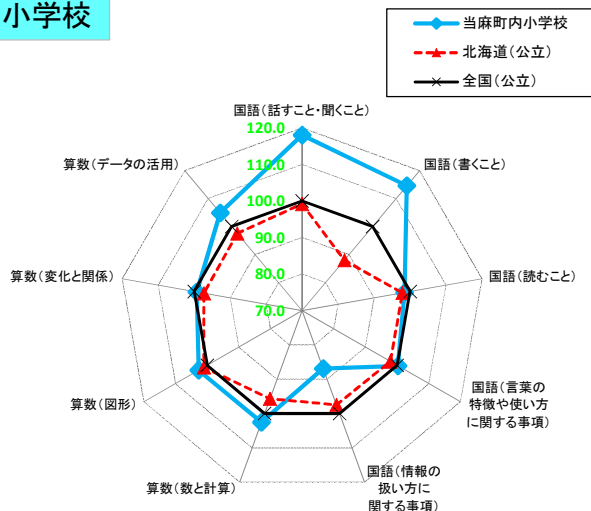
■当麻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:49人）（中学校数:1校、生徒数:43人）

【教科全体の状況】

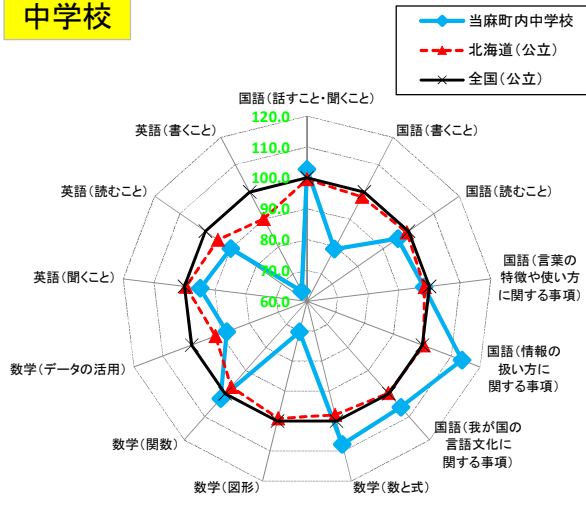
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	69
算数・数学	64	50
英語	-	40

小学校

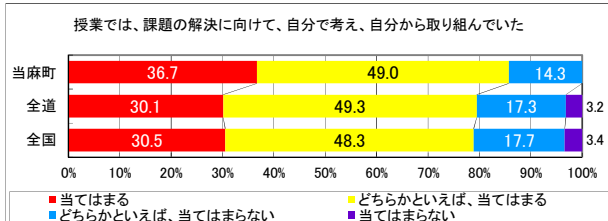
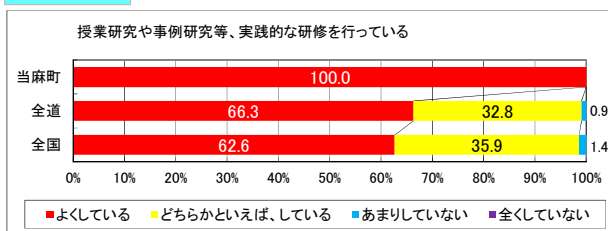


中学校

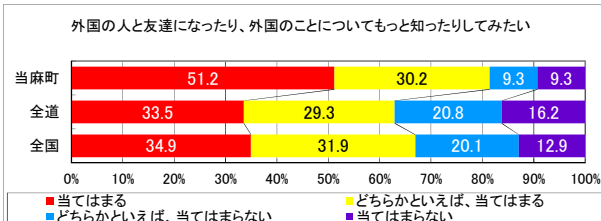
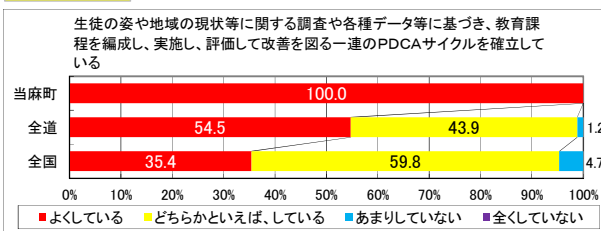


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善が促進され、国語の2領域1事項、算数の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、児童の学習に対する意欲が向上し、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づく検証改善サイクルを確立したことにより、授業改善が促進され、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「数と式」「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、生徒の実態等について共通認識をもち、協力して授業を行ったことにより、生徒の主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【当麻町の学力向上策】

- ◎ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の効果的な活用及び長期休業中の学習サポートの実施等による学力向上の取組
- ◎ 学習支援員及び英会話講師の各学校への配置による児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
- ◎ 長期休業中における1人1台端末を活用した家庭学習の取組

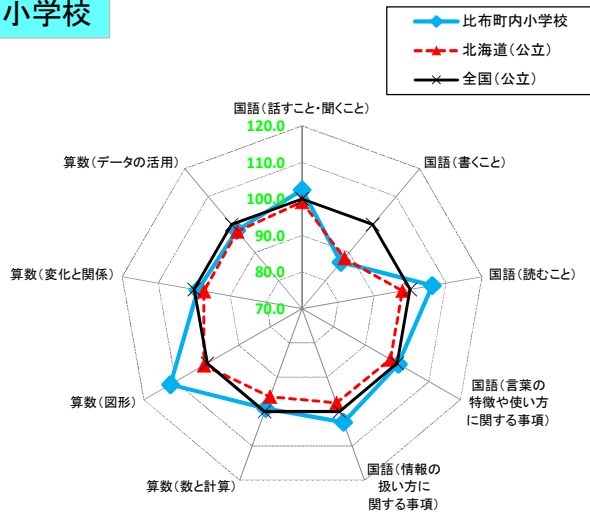
■比布町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:24人）

【教科全体の状況】

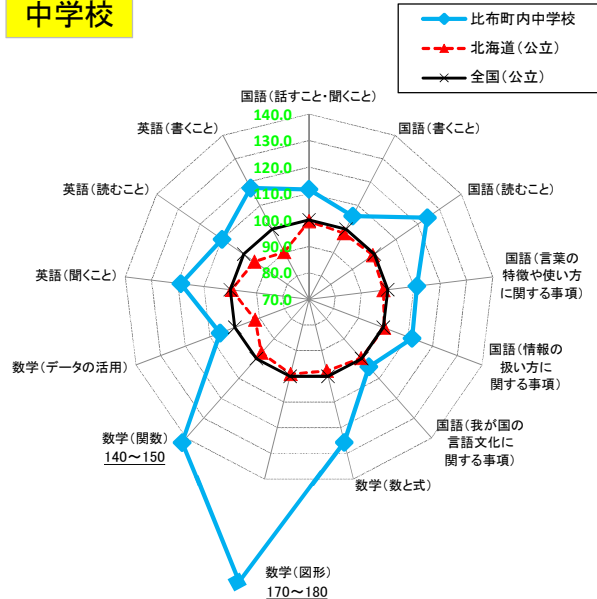
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	77
算数・数学	63	68
英語	-	52

小学校

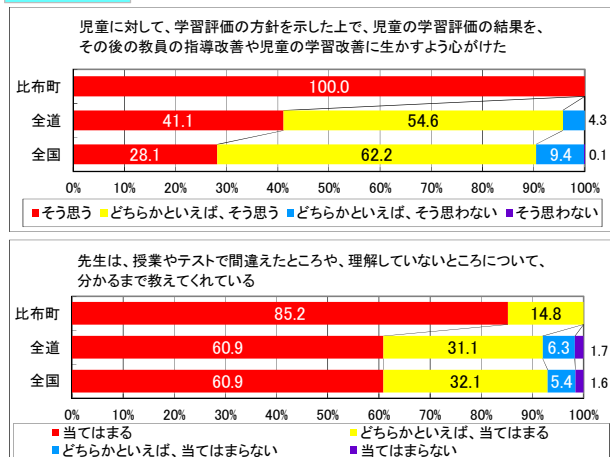


中学校

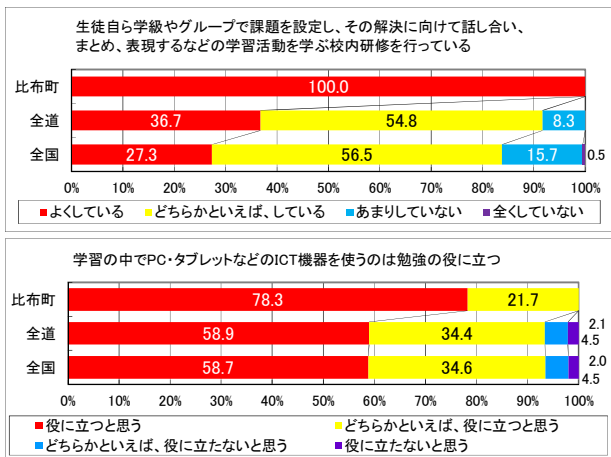


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

児童に対し、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を教員の指導改善や児童の学習改善に生かすよう心がけたことにより、指導と評価の一体化が図られ、国語の2領域2事項、算数の1領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られ、国語の全ての領域・事項、数学の全ての領域、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や生徒同士がやりとりする場面でICT端末を活用したことにより、生徒はその有用性を感じ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【比布町の学力向上策】

- ◎ 指導方法工夫改善加配の有効活用による、きめ細かな指導の実施
- ◎ 学習塾との連携や放課後学習支援事業の実施
- ◎ 学習支援員や非常勤英語講師の配置による指導の実施





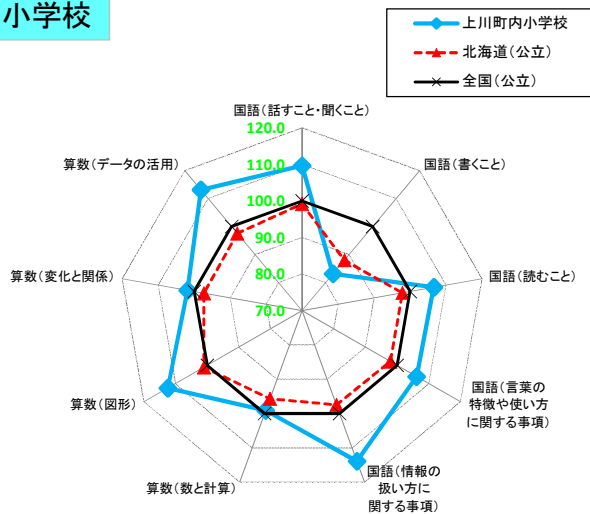
■上川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:24人）

【教科全体の状況】

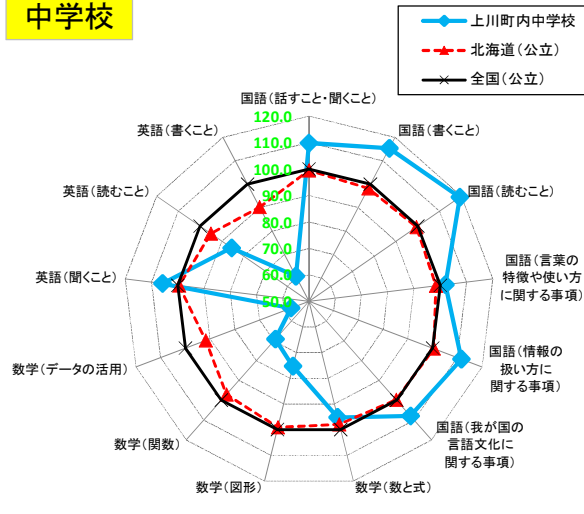
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	78
算数・数学	66	40
-	-	41

小学校

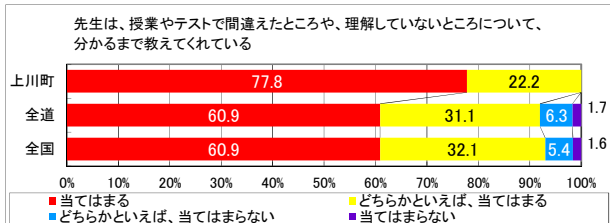
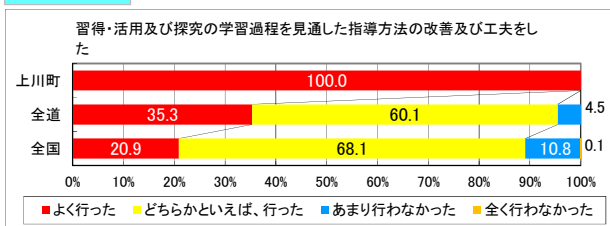


中学校

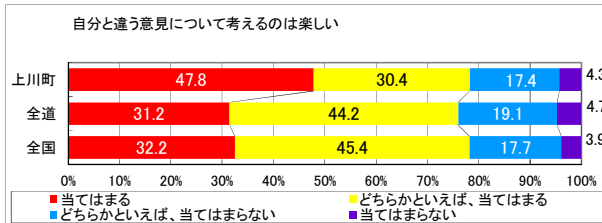
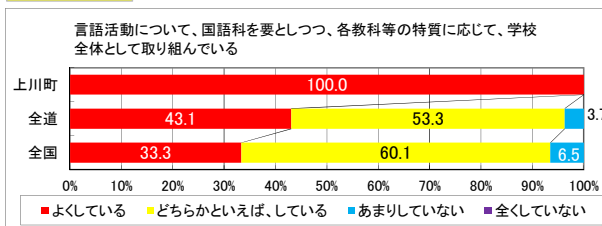


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の2領域2事項、算数の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
 言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体で取り組んだことにより、生徒が国語で正確に理解し適切に表現する能力の育成が図られ、国語の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業における対話的な学びの充実が図られ、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上川町の学力向上策】

- ◎ 習熟の程度に応じた指導やチーム・ティーチングの実施などによるきめ細かな指導の充実
- ◎ 教育活動の活性化を目的とした実践交流や情報交換等、小中連携した取組の実施
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた教職員の資質能力向上のための研修支援

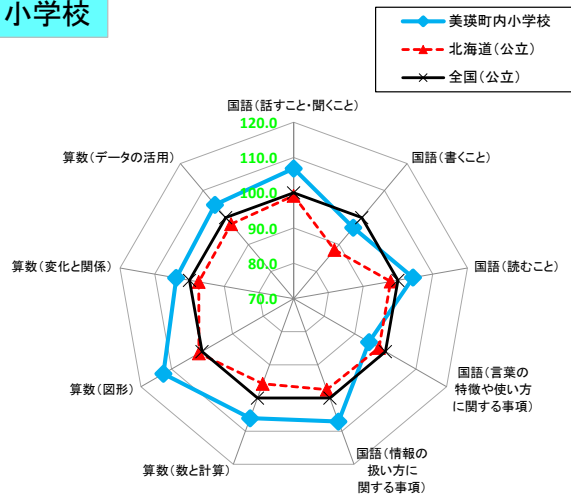


■美瑛町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:70人）（中学校数:2校、生徒数:56人）

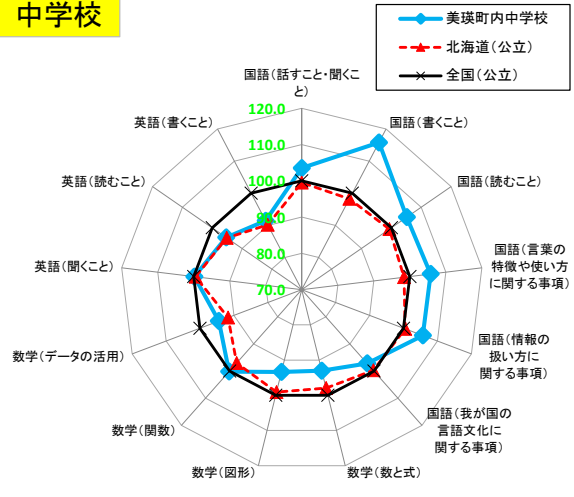
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

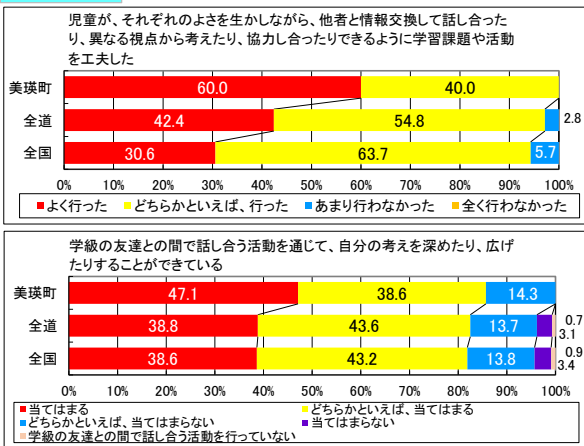


中学校

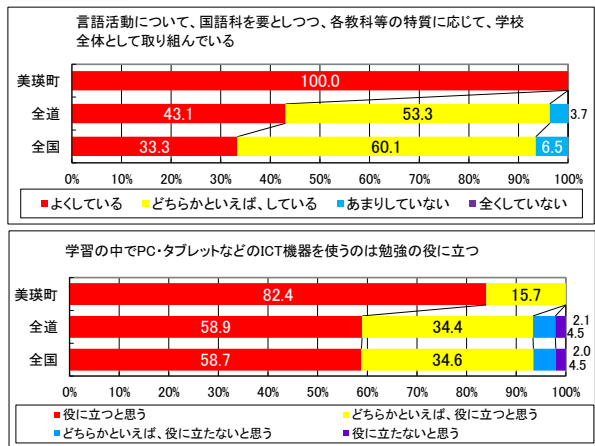


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善が図られ、国語の2領域1事項、算数の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、児童が協働的な学びの有用性を実感し、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科の特質に応じて学校全体で取り組んだことにより、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善が図られ、国語の3領域2事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、1人1台端末を効果的に活用したことにより、生徒がICT端末を活用した学習の有用性を実感し、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【美瑛町の学力向上策】

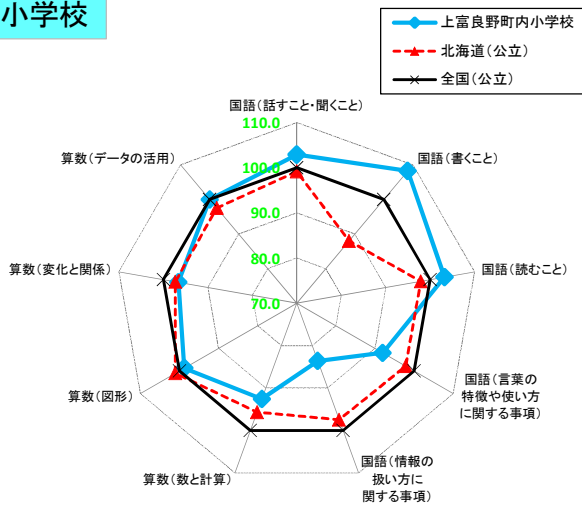
- ◎ 児童の学力の保障と学びへの意識の高揚を図る小学生学習ルームの実施
- ◎ 美瑛町教育推進協議会を主体とする、中学校教員による小学校への出前授業や幼小中高相互の授業参観交流の実施
- ◎ 児童生徒の主体的な協働を促進する複数の学校が参加するオンライン会議の実施、授業や学校行事などにおける児童生徒がスライドやジャムボードを活用して表現やまとめを行う活動の充実、欠席した児童生徒の学習をサポートするための授業のライブ配信の実施

■上富良野町内の状況及び学力向上策 (小学校数:3校、児童数:83人) (中学校数:1校、生徒数:72人)

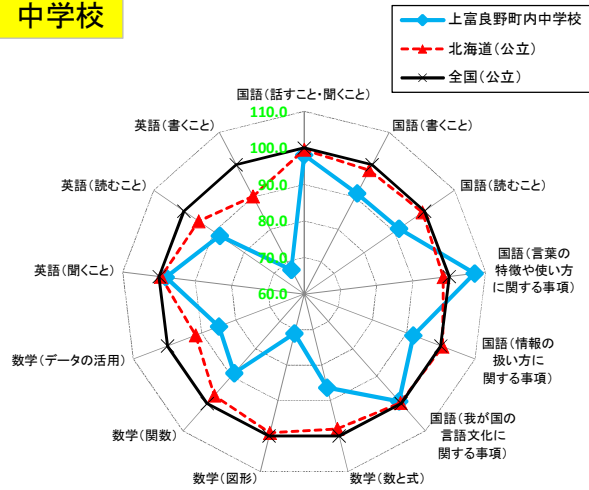
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

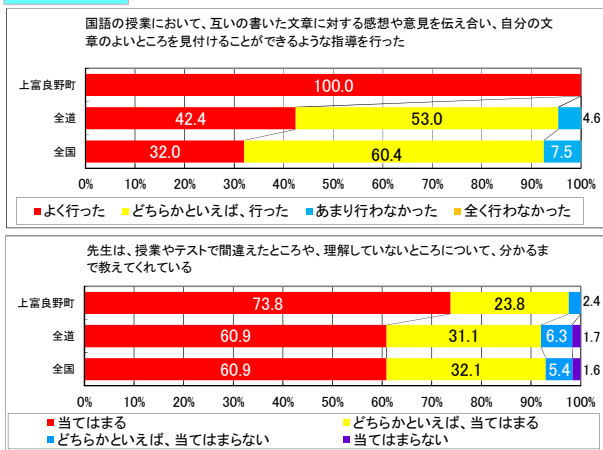


中学校

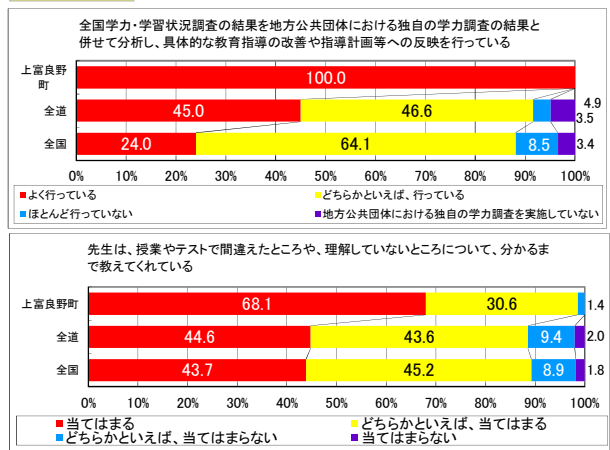


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、授業における言語活動の充実が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、振り返りや学び直しの時間の充実が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったことにより、授業改善が促進され、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒に対して、学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を単元全体のカリキュラム・マネジメントに生かし、教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、個に応じた指導の充実が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上富良野町の学力向上策】

- ◎ 「上富良野町確かな学力の育成プラン」に基づく、具体的方策の共有と授業改善の推進
- ◎ ICT機器の効果的な活用の推進
- ◎ 「家庭学習のすすめ」に基づく家庭学習習慣の確立に向けた取組の推進

【Webページ】



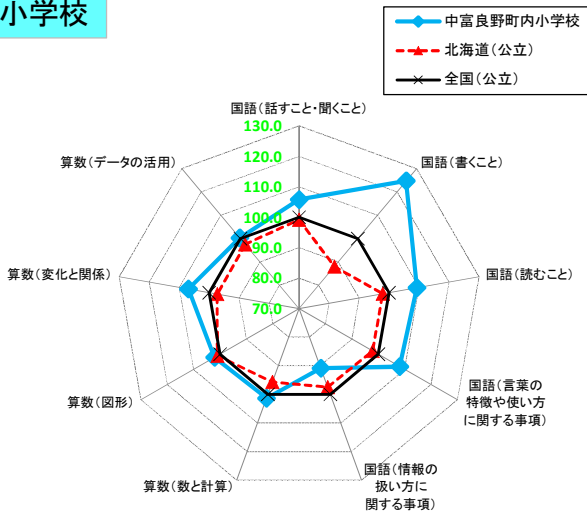
■中富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:33人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

【教科全体の状況】

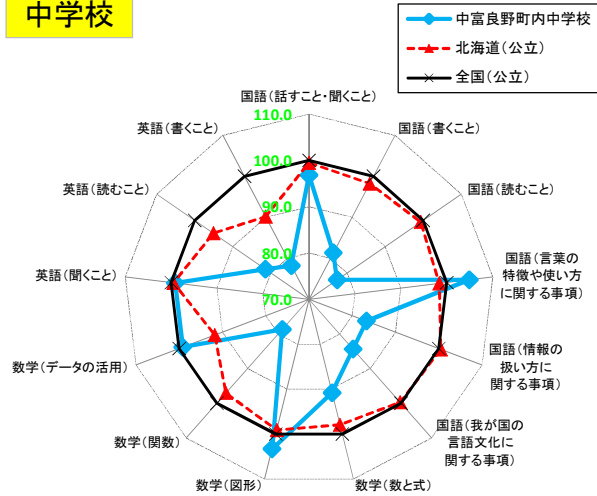
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	62
算数・数学	65	46
英語	-	41

小学校

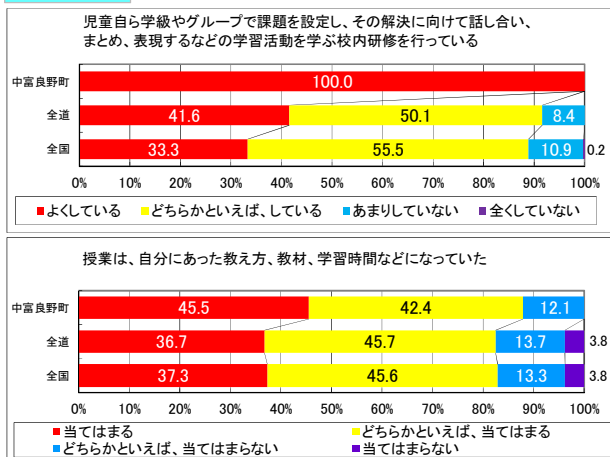


中学校

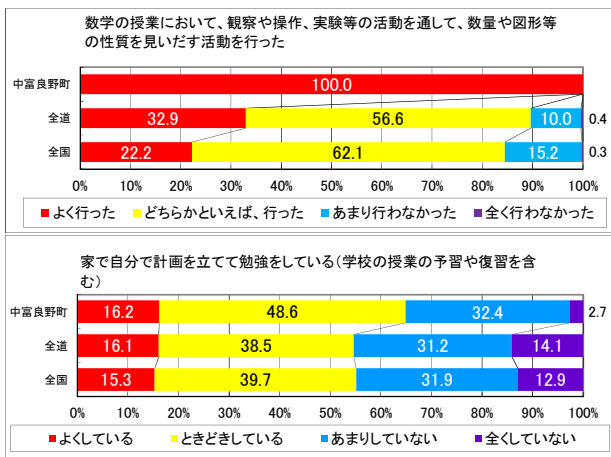


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

児童自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の3領域1事項、算数の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、学習内容の理解が促進され、数学の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒に対して、家庭学習の課題の課し方について校内の教職員で共通理解を図るとともに、家庭での学習方法を具体例を挙げながら指導したことにより、生徒の家庭学習に対する意欲が高まり、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中富良野町の学力向上策】

- ◎ 習熟度に応じた指導など基礎・基本の確実な定着のための加配教員、学習支援員の活用
- ◎ 読書習慣の確立をねらいとする家庭と連携した「朝読」「家読」の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善の推進

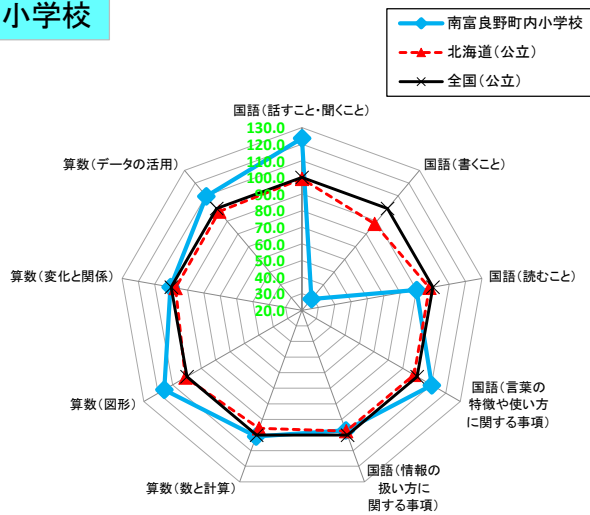
■南富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

【教科全体の状況】

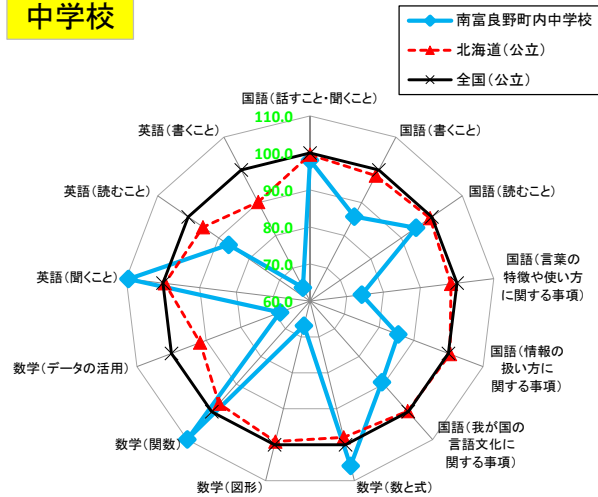
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	62
算数・数学	65	48
英語	-	43

小学校

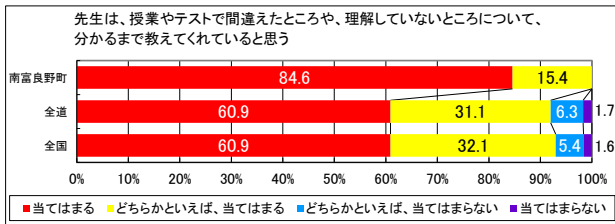
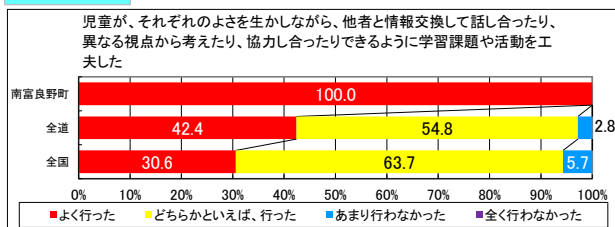


中学校

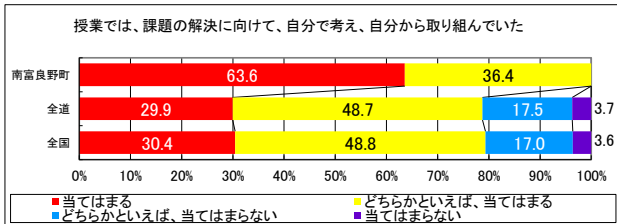
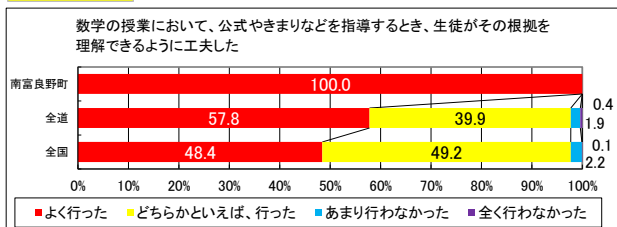


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
 児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導が充実し、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
 数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、数学の「数と式」「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 授業において、生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、生徒の主体的に学習に取り組もうとする意欲が高まり、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南富良野町の学力向上策】

- ◎ ICT端末を活用した学習支援ソフトによる授業補完や家庭学習の習慣化を図る取組の推進
- ◎ 小・中・高連携による教員の資質能力の向上をねらいとした学力向上講習の実施
- ◎ 家庭と連携した学習環境づくりの推進

【Webページ】



(後日掲載予定)

## ■占冠村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:5人）（中学校数:2校、生徒数:11人）

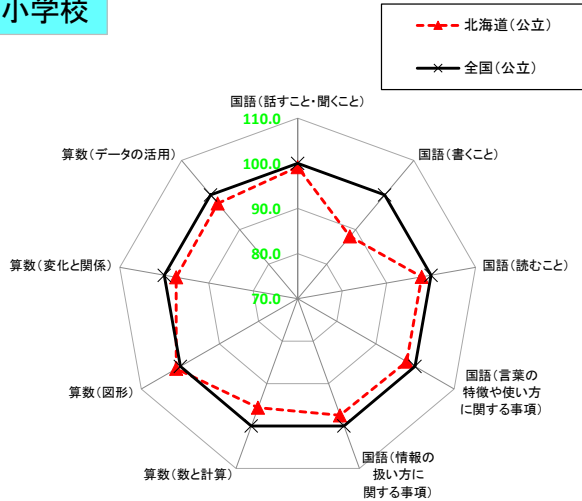
※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小学校の教科のデータは掲載していない。

### 【教科全体の状況】

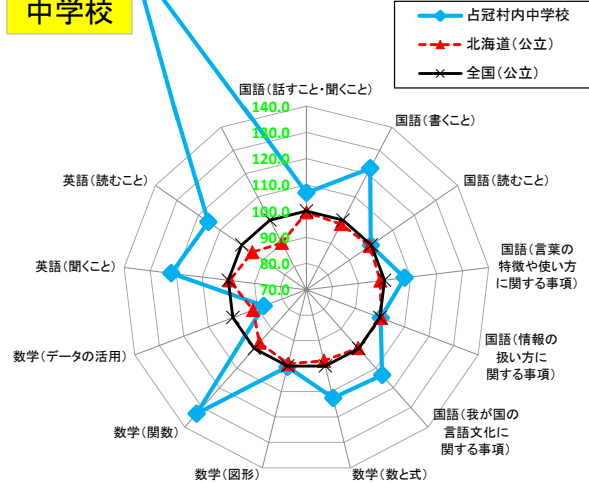
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	-	75
算数・数学	-	57
英語	-	61

#### 小学校

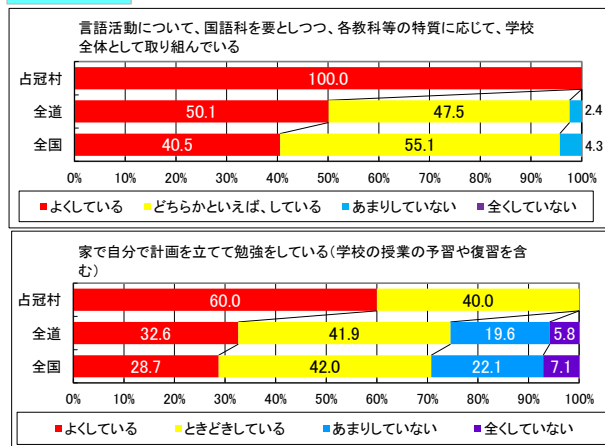


#### 中学校

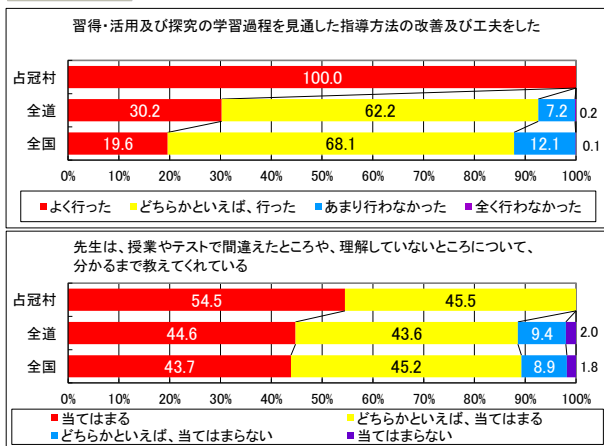


### 【質問紙の状況】

#### 小学校



#### 中学校



### 【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

言語活動について、国語科を要として、各教科等の特徴に応じて学校全体で取り組んだことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進されたと考えられる。

家庭での学習方法を具体例を挙げながら指導したことにより、児童の家庭学習に対する意欲が向上し、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫したことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の2領域2事項、数学の3領域、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒に対して、学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、個に応じた指導の充実が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

### 【占冠村の学力向上策】

- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成等、小中連携教育の推進
- ◎ 持続性のある教育の推進に向けた小・中合同連携会議の開催
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた村独自の端末利活用に関するルールの設定及び家庭学習における活用の推進



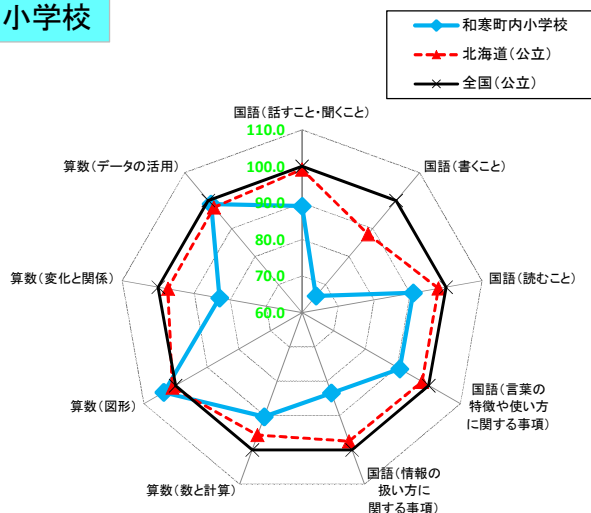
■和寒町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

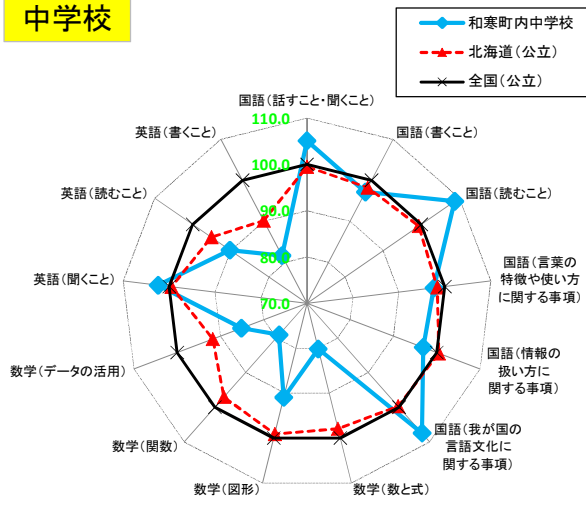
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	73
算数・数学	59	42
英語	-	43

小学校

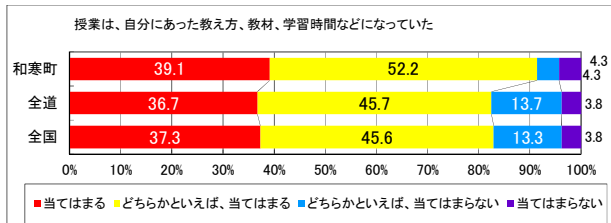
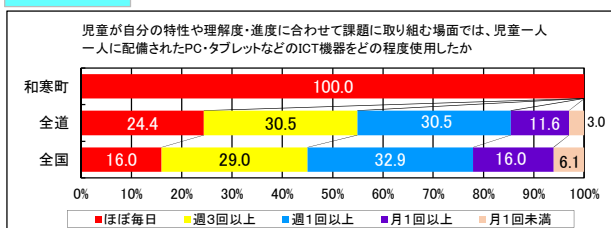


中学校

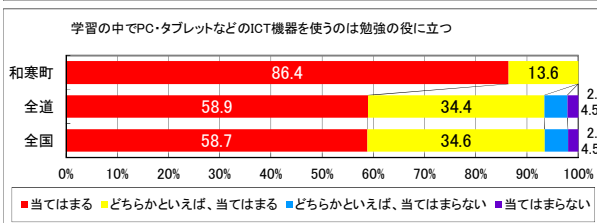
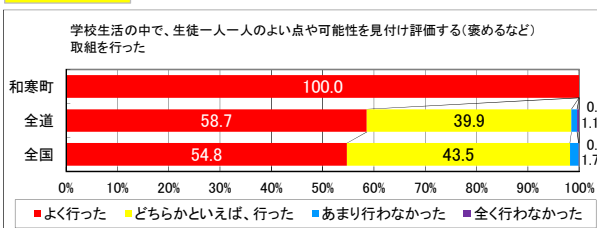


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
 児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、1人1台端末を効果的に活用したことにより、学習内容の定着が図られ、算数の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、生徒の学習に対する意欲が高まり、国語の2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 生徒一人一人に配備されたICT端末を、生徒が自分で調べる場面や生徒同士がやりとりする場面等、あらゆる機会に活用したことにより、生徒がICT端末の有用性を感じ、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【和寒町の学力向上策】

- ◎ 基礎学力の向上をねらいとする指導体制の工夫や学習サポートの取組の推進
- ◎ 各種研修等を通じた教職員の情報共有と授業力の向上に係る取組の推進
- ◎ 1人1台端末の活用による授業改善と家庭学習の充実

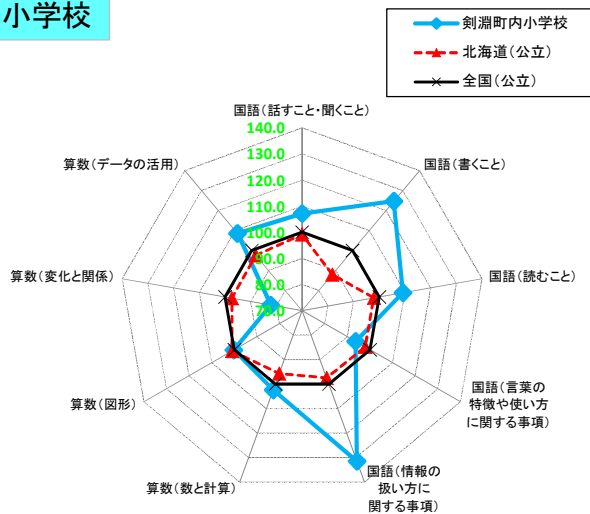
■ 剣淵町内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:15人) (中学校数:1校、生徒数:10人)

【教科全体の状況】

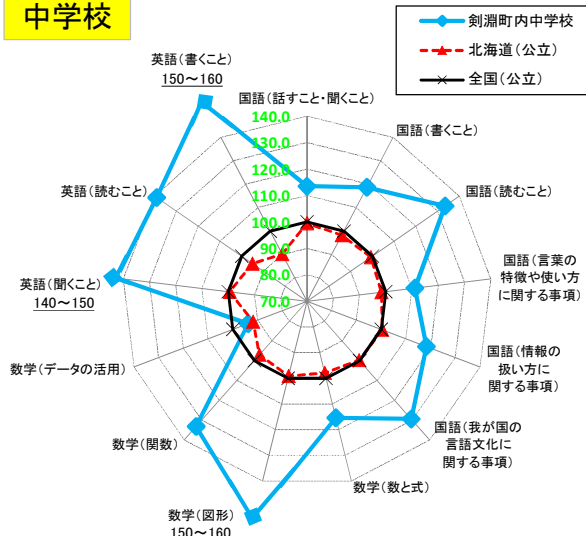
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	84
算数・数学	62	62
英語	-	65

小学校

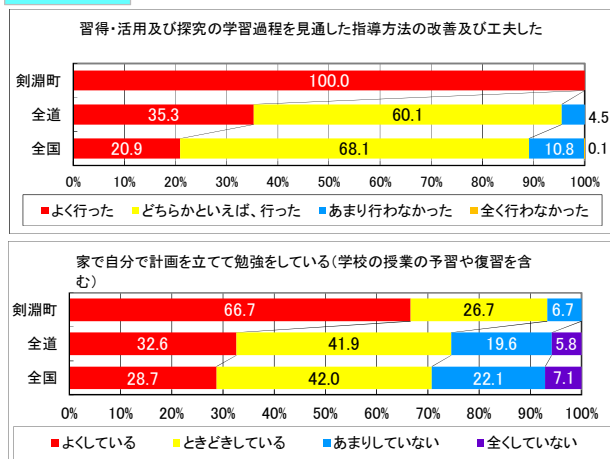


中学校

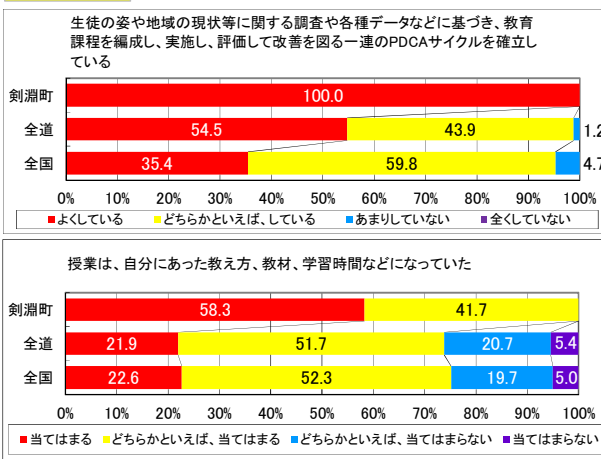


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が促進され、国語の3領域1事項、算数の2領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、児童の主体的に家庭学習に取り組もうとする意欲が高まり、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の全ての領域・事項、数学の3領域、英語の3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた学習指導の充実が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【剣淵町の学力向上策】

- ◎ 漢字検定、英語検定、数学検定などの受検料補助や受検会場の確保など教科検定支援事業の推進
- ◎ ICT端末上で使用可能な学習ドリルを活用した授業の推進
- ◎ 剣淵町小中高連携教育協議会教科部会における相互授業参観や授業改善に向けた部会協議の推進

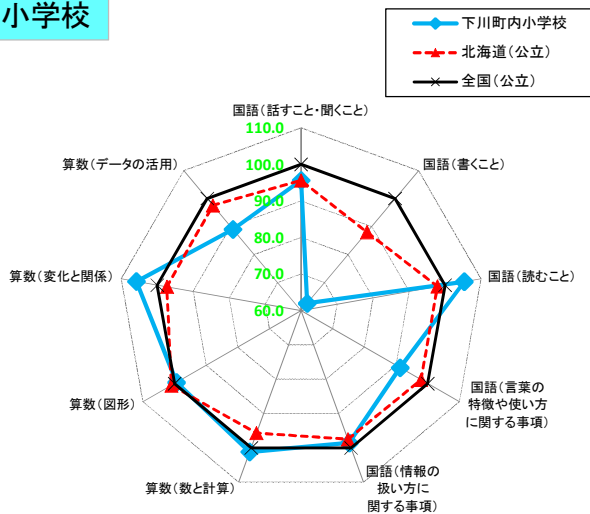
■下川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:12人）（中学校数:1校、生徒数:25人）

【教科全体の状況】

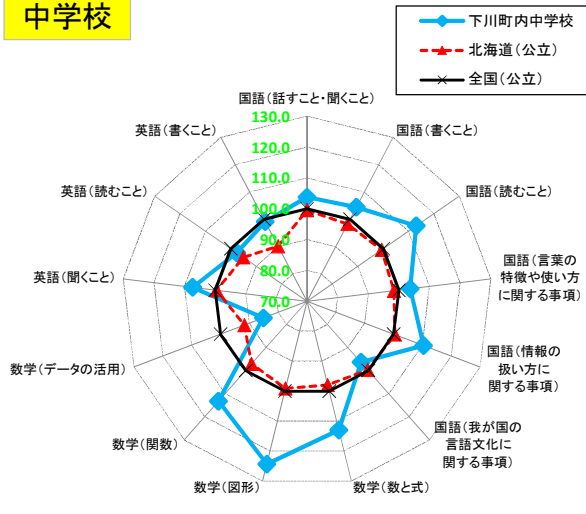
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	74
算数・数学	63	56
英語	-	47

小学校

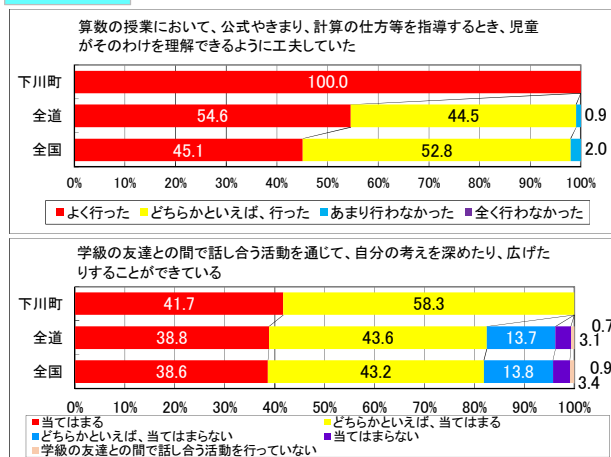


中学校

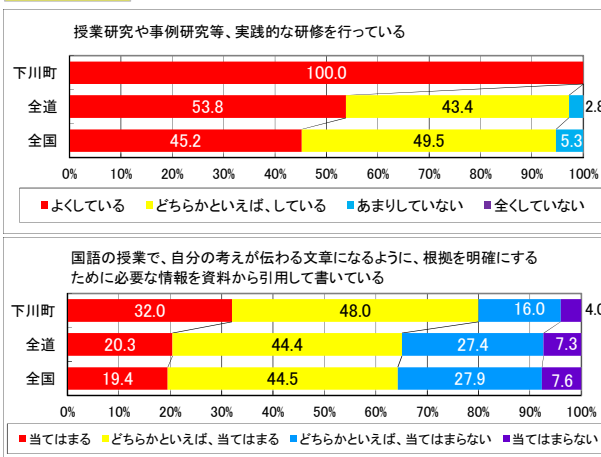


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
 算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が図られ、算数の「数と計算」「変化と関係」の領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。  
 児童のそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、対話的な学びが充実し、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が促進され、国語の3領域2事項、数学の3領域、英語の1領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。  
 国語の授業において、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるような指導を行ったことにより、生徒の言語意識を働かせた言語活動が促され、国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

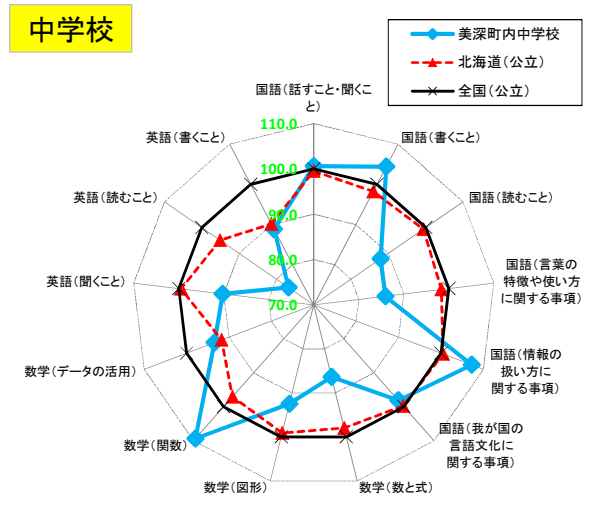
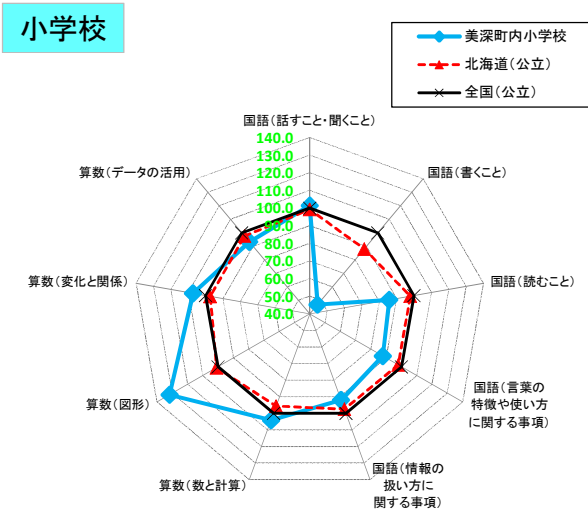
【下川町の学力向上策】

- ◎ 小中連携した学習規律や授業展開の徹底
- ◎ 前時の振り返りや課題解決場面における、児童生徒の思考を深める1人1台端末の活用
- ◎ 家庭学習の充実や習慣化に向けた「ウィークエンドスクール」の実施

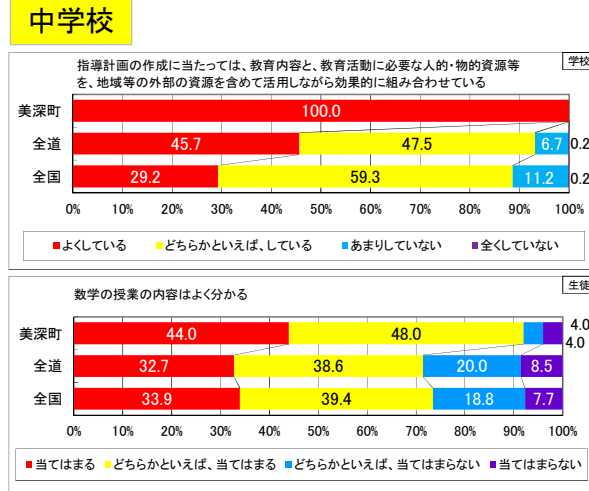
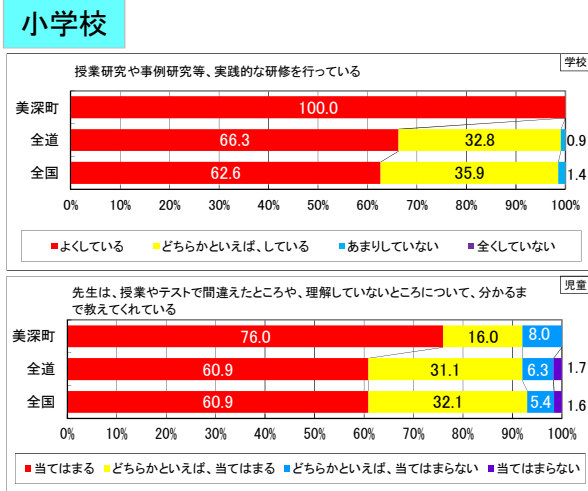
■美深町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：24人）（中学校数：2校、生徒数：25人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、各教科の授業改善の取組が活性化し、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じたきめ細かな指導が充実し、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、互いに書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を効果的に行うなど、「書くこと」の指導を充実させる必要がある。

**中学校**

指導計画の作成に当たって、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせたことにより、教育活動が充実し、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」、数学の「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が図られ、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで、一文一文ではなく全体の概要や要点を捉える言語活動を効果的に行うなど、指導の充実を図る必要がある。

【美深町の学力向上策】

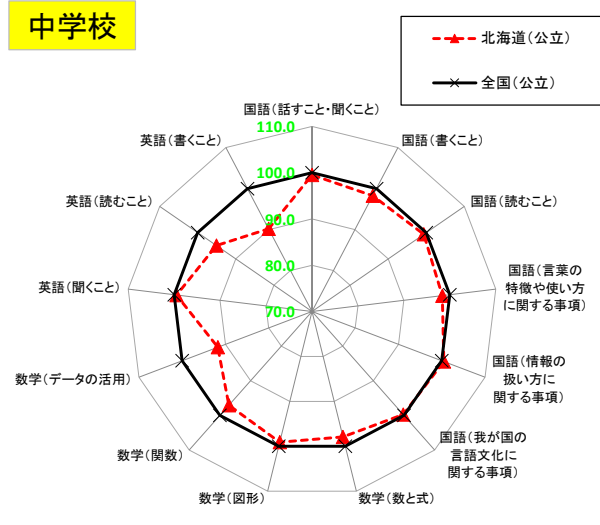
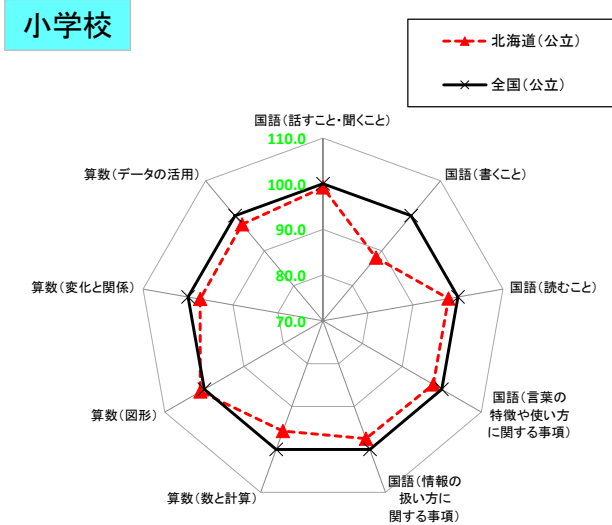
- ◎ 個に応じた指導の充実や英語検定、漢字検定を活用した学力向上の取組の推進
- ◎ 幼小中高の連携した指導や、ALT等の人材を有効活用した外国語教育の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した学習の推進
- ◎ 学校運営協議会や保護者と課題を共有した教育活動の推進

■音威子府村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:2人）（中学校数:1校、生徒数:2人）

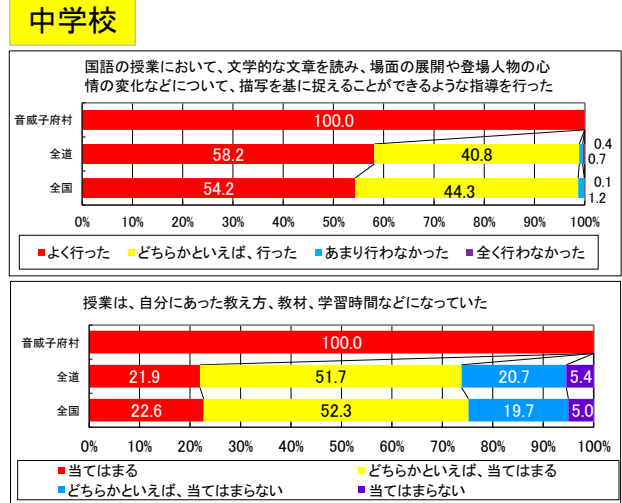
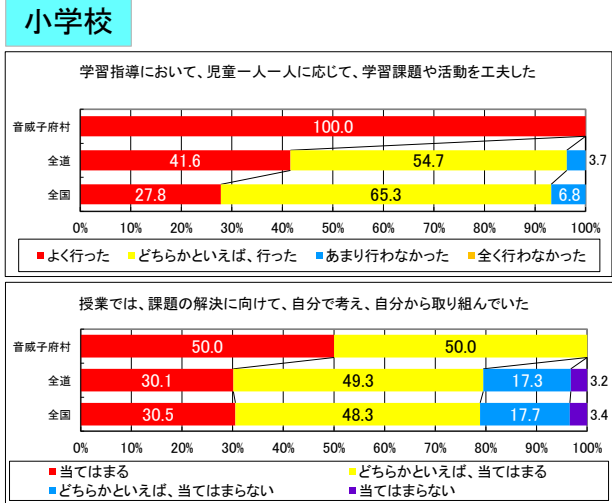
※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

### 小学校

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導が充実したと考えられる。

授業において、児童自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、児童の主体的に課題解決を図ろうとする意欲が高まり、授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

### 中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行うなど身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりを行ったことにより、言語活動の充実が図られたと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【音威子府村の学力向上策】

- ◎ 年2回の学力検査の実施による、ショートスパンの検証改善サイクルの確立に向けた取組の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した個に応じた指導の充実
- ◎ 地域資源を活用した体験的な活動とICTをベストミックスさせた教育活動の充実

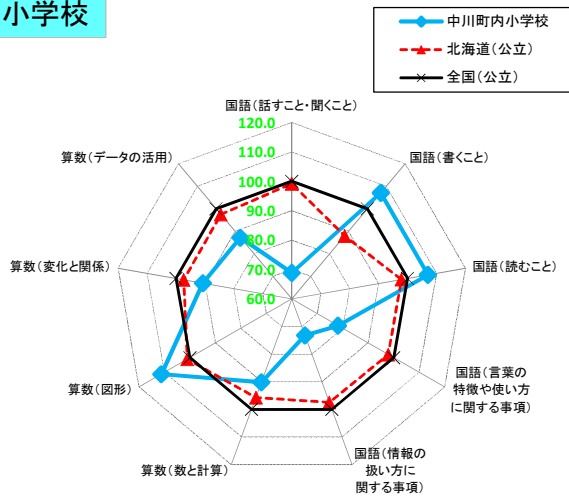
■中川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:14人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

【教科全体の状況】

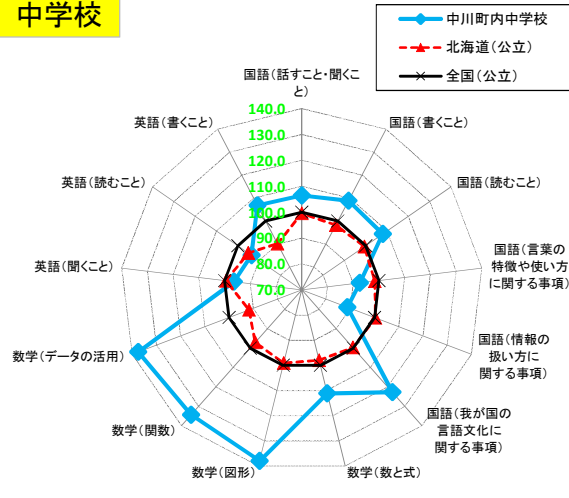
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	73
算数・数学	59	64
英語	-	44

小学校

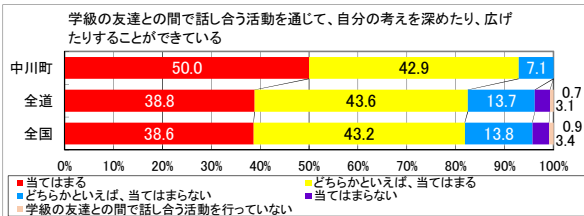
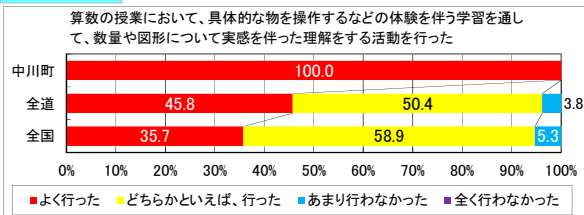


中学校

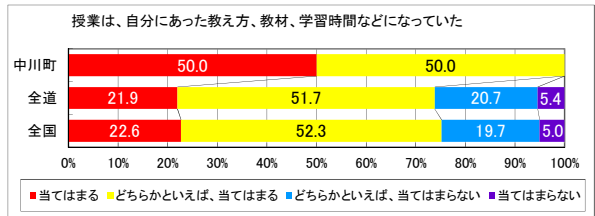
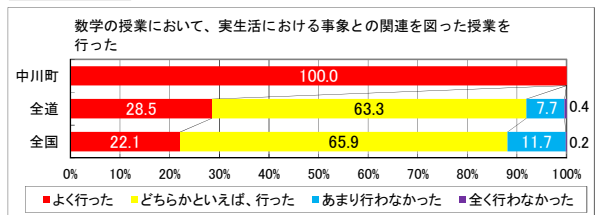


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて学校全体として取り組んだことにより、児童の対話的な活動の充実が図られ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の問題発見・解決の過程が充実して数学的に考える資質・能力の育成が図られ、数学の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

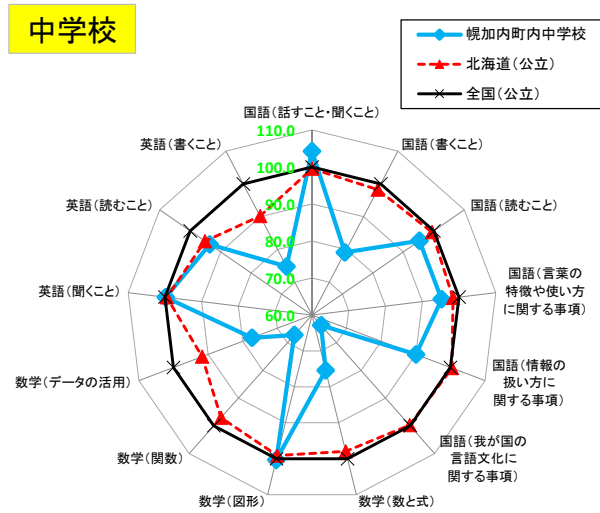
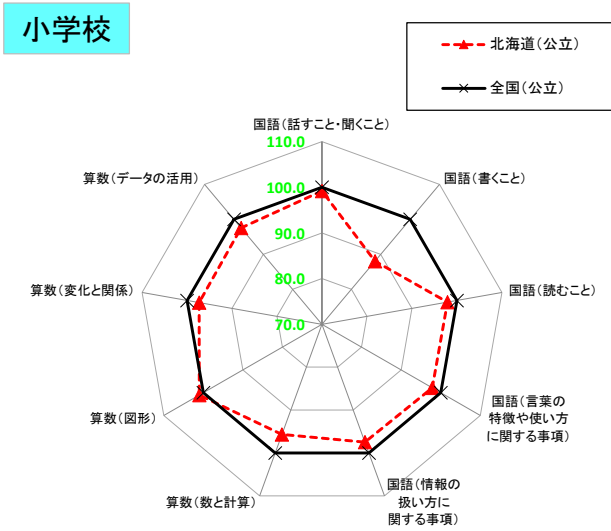
【中川町の学力向上策】

- ◎ 学習内容の確実な定着をねらいとする、朝・放課後サポート学習における補習や追試の実施
- ◎ ボランティアを活用した放課後学習支援「なかがわ塾」による基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組の充実
- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成など、小中連携教育の推進
- ◎ 中川町学校教育情報化検討会議を中心とした、ICT端末の効果的な活用による授業の質的向上に向けた取組の推進

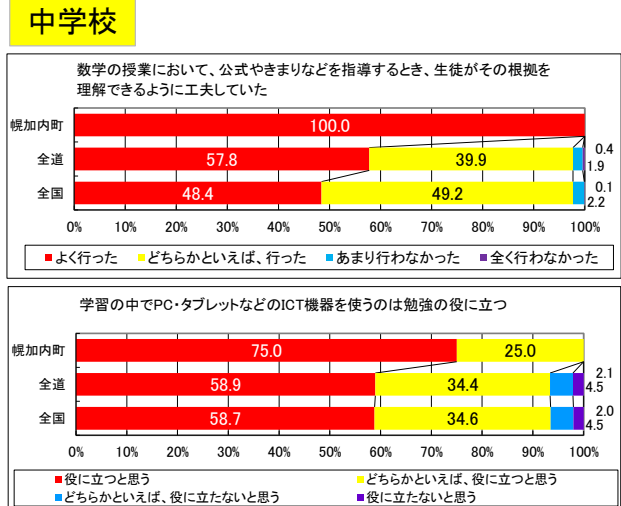
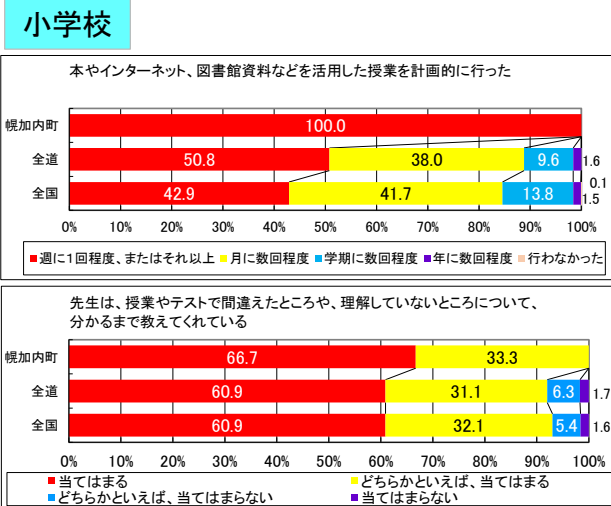
■ 幌加内町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:3人) (中学校数:1校、生徒数:7人)

【教科全体の状況】 ※ 児童数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小学校の教科のデータは掲載していない。

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

### 小学校

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、各教科等における学習活動が充実したと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて学習課題や活動を工夫したことにより、個に応じた指導の充実が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

### 中学校

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、数学の「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修を充実させたことにより、授業における1人1台端末の利活用が促進され、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【幌加内町の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施
- ◎ 小規模校の特性を生かした一人一人へのきめ細かな指導の充実
- ◎ 授業における課題提示や学習の振り返りの位置付けなど、授業改善の推進